

# 英国 4 地域におけるインクルーシブ教育の実態とその変化 —欧州内での位置に注目して—

伊藤 駿 (広島文化学園大学)

## 1. はじめに

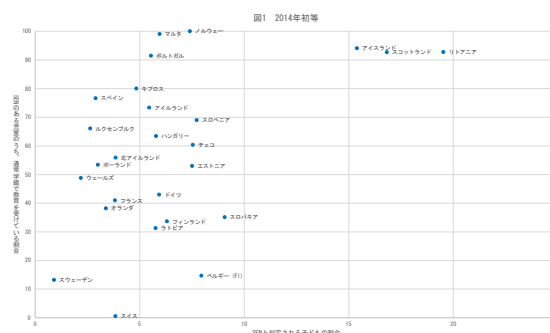
本発表の目的は、英国を構成する 4 地域 (イングランド・ウェールズ・北アイルランド・スコットランド) におけるインクルーシブ教育を対象に、特に「教育の場」と「教育の対象」という観点からその実態と変化を捉えることにある。

## 2. 研究の方法

上記の目的を達成するために、ヨーロッパにおけるインクルーシブ教育の統計局 (European Agency Statistics on Inclusive Education、以下 EASIE) より、特別な教育的ニーズおよび子どもたちの教育の場に関する統計データの提供を受けた。本データは、同一の項目について各国政府関係者が調査をしており、信頼性が高いと考えられる。今回提供を得たデータは、2014 年から 2 年ごとのものであり、発表者は 2014 年、16 年、18 年のデータ提供を受けた。本調査について、3 時点ともに参加した国や地域は 27 地域であった。

## 3. 分析の内容

本分析では、先行研究での議論を踏まえ、「教育の場」と「教育の対象」という観点に注目し分析を行った。まず、2014 年の調査結果を図 1<sup>1</sup>としてプロットした。そのうえで、2016 年、2018 年に結果がどのように変化しているのか分析した。分析をもとに、「統合—分離」「同化—異化」を軸とする 4 象限に分類し、それぞれの地域の特徴を明らかにした。



## 4. おわりに

発表ではより詳細な結果を示し、英国 4 地域のインクルーシブ教育が欧州の他地域と比較してどのような特徴を持つのか、またどうした志向性を有しているのか述べる。それにより、英国のインクルーシブ教育を捉えていく上での論点を提示したい。

[付記] 本研究は科研費 20K22203 の成果の一部である。

<sup>1</sup> イングランドに関しては 2014 年度のみ正確なデータが得られず、本図には記載されていない。